



八戸・福島漁業が国内初

# 1力統2隻編成の巻き網船団3日進水

## 人件費などコスト削減

### 「効率型漁業」実現へ

八戸市の福島漁業(福島哲男社長)が、国内初となる「1力統2隻編成の巻き網船団」を建造中だ。巻き網船団は本船(網船)と探索船、運搬船(一三隻の四一五隻編成が一般的だが、新船団は本船の第88艘宝丸と運搬船一隻のみ。水産資源状況の悪化などを背景に、船団縮小によって人件費などのコスト削減を図り、少漁獲量でも採算のとれる「効率型漁業」の実現を目指す。船は来月三日、進水式を迎える。

福島漁業では現在、巻網船団三力統を所有。そのうち、第88艘宝丸を本船とする船団が建造から約二十年経過して代船期を迎えており、新船団はこれに代わるものだ。また、徹底した資源管理下での低コスト化、省力化漁業、水産物の高付加価値化、労働環境向上などを狙い、水産庁の「漁船漁業構造改革推進会議」が導入を進める「構造改革船」として、建造中の本船・第88艘宝丸。完成すれば国内初の2隻体制の巻き網船団となる。10月、静岡市内の造船所(福島漁業提供)

静岡市内の造船所で今年七月に着工した。新船団は、本船(三〇〇トン)と運搬船(三二〇トン)で編成。中でも、本船は従来の二倍以上に大型化され、網船としての機能に加え探索、漁獲物の運搬機能も兼ねる。船団方式では持たなかつた凍結設備も備え、市況をにらみながらの効率的な水揚げが可能となる。同時に、作業スペース拡大などによる安全性向上と、個室設置やベッドの大型化による乗組員の居住空間充実も図っている。同社によると、二隻編成とすることで、一力統

〇トンと運搬船(三二〇トン)で編成。中でも、本船の造船費用が四隻編成に比べて三割減。操業開始後のコストも、乗組員が従来より二十人少ない三十人になるため人件費を削減できるほか、燃料費も大幅に圧縮でき

福島全長監査役は「新船団では、漁獲量が現状の三割減でも経営は成り立つ見通しだ。労働環境を改善することで、今後は女性でも働ける職場にもなる」と話している。新船団は計器類などの整備を終え次第、来月三日月にも八戸港に入港。その後、カツオなどを追って試験操業に入る。